

# 血液バイオマーカーと神経画像検査によるBPSDの生物学的基盤の解明、および認知症者の層別化に基づいたBPSDケア・介入手法の開発研究

代表機関/代表者：高知大学 数井裕光  
 研究期間：2021年度～2025年度

## 研究開発目的

- アルツハイマー病(AD)とレビー小体型認知症(DLB)の人を対象に、妄想、興奮などの行動・心理症状(BPSD)の発現や重症度と関連する脳萎縮、脳血流低下、血液バイオマーカー(BM)を同定。
- 様々なBPSDに対して有効性の高い対応方法や声かけ法を明らかにする。
- 適切な対応によるBPSD治療効果と脳萎縮、脳血流低下、血液BMとの関連を明らかにする。

## 取り組み

- 530例の頭部MRIと345例の脳血流SPECTのデータを用いて、BPSDと関連する脳領域を同定 (J-BIRD-RN研究)
- BPSDに関する縦断研究 (BPSDケアレジストリー研究とJ-BIRD-PNB研究)
- 認知症ちえのわnetデータの利活用とAI導入

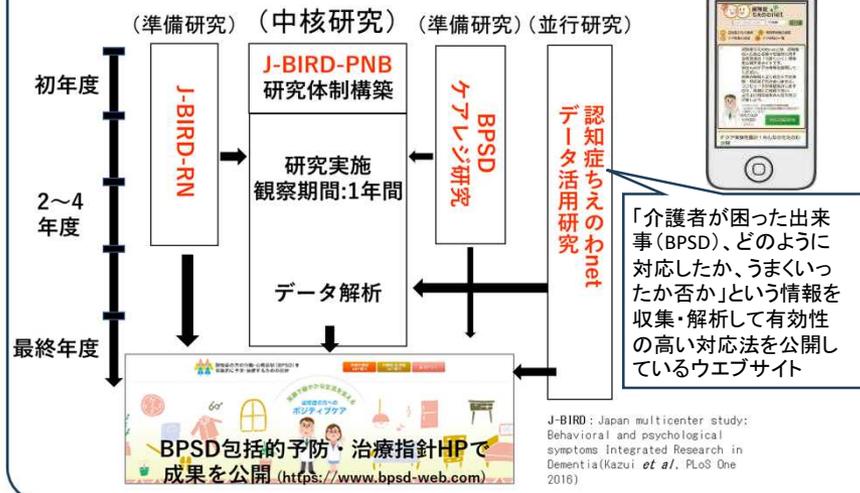
## 成果

- 興奮、拒否、幻覚・妄想と関連する脳画像所見を複数同定。
- 認知症ちえのわnet閲覧数200万PV突破 (米国から18万、中国から2万弱)、5334件のケア体験を公開、AI導入完了。
- 19種類のBPSD実践的ケア冊子作成、解説動画作成開始。
- PNB研究で110例を登録し、縦断データ収集中。

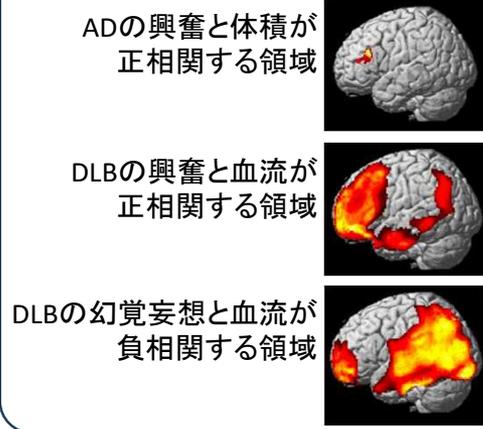
## 今後の展開

- PNB研究で収集したBPSD、脳血流、脳萎縮、血液BM等のデータを多変量解析。
- 認知症ちえのわnetにAIチャットボットを導入し、知りたい対応法を即座に提供できるようにする。
- BPSD対応解説動画コンテンツを増やす。

## 研究の概要：4研究で構成



## 研究成果



## BPSD実践的ケア冊子



## BPSD対応解説動画作成

